

2014年6月8日 ペンテコステ主日礼拝

説教 聖霊来る！

ガラテヤ人への手紙5章16-26節

【キリストの十字架】

12節のパウロの激しい言葉遣いには驚かされます。パウロは、「キリストの十字架だけでは十分でない。割礼も必要だ」という教えを見逃せませんでした。それでは福音が歪んでしまうからでした。キリストの十字架はそれだけでじゅうぶん。十字架は、私たちの罪を赦し、それだけではなく、私たちに自由を与えます。割礼を始めとする律法は私たちが自由にする事ができないのです。

【歪みからの自由】

キリストが与えるのは、うちなる歪みからの自由です。自分のやりたいように生きているようで、実際は自由でない生き方があります。歪んだ思いを満たすために生きる人は歪みの奴隷なのです。

「不品行、汚れ、好色」(19)とあります。聖書のどこにも、男女のあいだの性がまちがったものだと書いてあるところはありませぬ。問題は、性の歪み。自分の妻を捨てる。自分の妻ではない女性と関係を持つ。そんな歪みの奴隷となってしまうことです。

「偶像礼拝、魔術」(20)は神さまへの礼拝の歪み。自分のために神さまを利用しようとする歪みです。

「敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ」(21)は、隣人との関係の歪み。最も数多く挙げられているのがこの種類の歪み。「もし互いにかみ合ったり、食い合ったりしているなら、お互いの間で滅ぼされてしまいます。気をつけなさい」(15)とありますが、その具体的な現れがここにありません。自分を守るためや、自分の思いをとげるために、徒党を組み、反対する者に歯をむき出しにする、そんな歪みです。

そして、「酩酊、遊興」(21)、大酒に酔い、美食をむさぼる。生命を支えるための飲食が、自分を奴隷にして食い尽くすという自分自身に対する歪みです。キリストの十字架は、これらの歪みから私たちが解放されたのです。十字架の上でご自分の死とひきかえに。

【聖霊の実】

キリストは私たちがどこへ向けて、解放してくださいましたのでしょうか。「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」(22-23)とあります。ここに大きな、私たちが憧れてやまない自由があります。愛する自由。喜びに生きる自由。平安を楽しむ自由…。もう私たちのうちに実がなっていて実現しているのです。

【豊かな実りのために】

実というのは自然になるもの。自分の力でならせるものではありません。キリストにつ

ながっているなら、私たちはキリストに似た者に変えられていく。ぶどうの実がぶどうの木からの樹液によって実を結ぶように。

そこに、ただひとつ、注意すべきことが。古い生き方にもどってしまわないことです。御霊による歩みを歩ませてくださるのは、御霊なる神さま。「私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません」(16)。神さまというお方は、なんとねんごろなお方でしょうか。主イエスを送って十字架で私たちが自由にしてくださいました。そして私たちがその自由の中にとどまることができるように、御霊を送って、私たちに中に住まわせてくださる。今日はペンテコステ、2000年前のこの日、信じる者の中に聖霊が住んでくださる、ということが起こった。父なる神が、御子によって、御霊を送ってくださいました。三位一体の神さまとはそのように私たちが総がかりで、くるんでくださる神さま。私たちが歪みの中に、戻ることを、なんとしてでも、抱きとめようとしてくださる神さまです。

神さまは他にも、私たちに助けを送ってくださっています。それは、ここにいる仲間です。「兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。」(13)とある通りです。